

No.	意見	検討結果(県の考え方)	反映状況	反映内容		
				反映箇所	反映前	反映後
1	保育所における待機児童数を主要指標にして欲しい。 県の様々なプランとの関係で、主要指標にすることが難しいということであれば、せめて参考指標とし、毎年、審議会に数字を示していただきたい。	参考指標に追加します。	A(全部反映)	Ⅱ 女性の活躍支援 3 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進のための環境づくり 《参考指標》 参考指標一覧	(指標なし)	以下の指標を参考指標に追加。 <u>指標名: 保育所等利用待機児童数</u> <u>単位: 人</u> <u>現状値(H26): 193</u> <u>指標の考え方: 保育を必要とする子どもの数に対する保育所等の利用定員の充足状況を示す指標として設定。</u>
2	意識調査を踏まえた主要指標は、再掲を含め6つあるが、意識調査の結果を踏まえた指標を設定することは、この審議会において、毎年、進捗状況を検証することが出来ないことになるので、そういった指標については、極力最小限にしていきたい。	「男女が共に支える社会に関する意識調査」の結果を使用している主要指標のうち、下記②、③、④については平成17年、①と⑤については平成23年から主要指標としています。 本プランの計画期間は平成28年度～32年度としていますが、改訂前のプランと合わせ、長期的見通しに立って本県における男女共同参画社会づくりの目標、方向、実現方を総合的に定めるものです。これらの指標については、長期的に動向を把握し取り組んでいくために必要であり、引き続き、主要指標とします。 【意識調査結果を主要指標としているもの】 ①職場において男女が平等と感じている人の割合 ②男女共同参画社会基本法の名称又は内容を知っている人の割合 ③社会慣習の中での不平等感の割合(再掲あり) ④DV防止法の名称又は内容を知っている人の割合 ⑤自治体の相談支援センター、警察で相談や被害者保護を行っていることを知っている人の割合	D(参考)	—	—	—
3	男女共同参画サポーターの活動を支援しているとか、サポーターが活動しやすいようにしていく、といったことを盛り込んでほしい。 男女共同参画サポーター認定者数だけでなく結果がどうか、支援しますという姿勢を見せて欲しい。	市町村と男女共同参画サポーターが協働して事業を行う場合の支援についての記述を追加します。	B(一部反映)	Ⅲ 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備 4 地域における男女共同参画の推進	○ 市町村に対し、男女共同参画サポーター <u>認定者との</u> 協働したまちづくり事業の実施について働きかけ <u>ます。</u>	○ 市町村に対し、男女共同参画サポーターと協働したまちづくり事業 <u>等</u> の実施について働きかけ <u>るとともに、必要に応じて、具体の事業における助言や情報提供等の支援を行います。</u>
4	「PTA会長に占める女性の割合」が参考指標に入っているが、PTAに入ってみて、男性の方が少ないというか、女性社会だと感じている。会長として男性が入ることによって男性がPTAに参加するところもあるので、むしろ指標としては、PTAの役員に占める男女比を半々にするといったものの方が現実的ではないか。	PTA役員の男女比を出すような統計については、現在のところデータがなく、調査が困難であることから、統計的に入手し得る、「女性の会長の割合」を現在の指標とさせていただきます。 なお、PTAに対して、役員に男女がバランスよく参画するよう、働きかけは進めていきたいと考えております。	D(参考)	—	—	—
5	参考指標の「PTA会長に占める女性の割合」は「地域における男女共同参画の推進」に入っているが、むしろ「家庭における男女共同参画の推進」に入れた方がいいのではないか。	PTAは保護者の皆様方が中心になっていますので、家庭というイメージが強いと思われますが、学校、家庭、地域の連携が重視されているところであり、活動は地域の中で行われるものであることから、この「地域における」という部分に記載させていただいております。	E(対応困難)	—	—	—
6	PTAにおける男性の参画の推進ということが必要だと思うので、「男性のPTA参加の促進」といった言葉や指標を入れるといいのではないか。	委員意見を踏まえ、PTA等の社会教育関係団体に対して男女共同参画が推進されるよう働きかけを行っていくことをプラン本文に追記いたします。	B(一部反映)	Ⅲ 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備 4 地域における男女共同参画の推進	(記述なし)	以下の記述を追加。 <u>○ PTA等の社会教育関係団体に対し、男女共同参画の推進について働きかけます。</u>
7	主要指標の「教職員の管理職に占める女性の割合」は現在のプランにおいても努力したにもかかわらず数字が上がらなかった。同じことをしても成果はなかなか上がらないと思うが、新しい対策を考えているのか。目標値を掲げるからには、裏付けの方策をお示しいただきたい。	教職員の管理職に占める割合を高めるためには、職員や職場の意識を高める取組のほか、働きやすい環境づくりも必要と考えており、女性活躍推進法第15条に定める特定事業主行動計画に基づき、具体的な取組を進めていくこととしています。 【検討中の取組(例)】 職員の能力開発・キャリア形成支援のための研修、多忙化解消の取組と連動したワークライフバランスの推進等	D(参考)	—	—	—

No.	意見	検討結果(県の考え方)	反映状況	反映内容		
				反映箇所	反映前	反映後
8	防災における男女共同参画の推進について、岩手県沿岸地域には「婦人防火クラブ」や「婦人消防協力隊」といったいわゆる女性組織として防災に携わっている方が実際に力を発揮しているが、消防団に団員として女性が入ること、その方々の活動がうまく整理されていない状況があると聞いている。プランの素案では、女性が今までやってきた地域の防災活動について触れられていないので、国から「防災における男女共同参画の推進」という政策が示された中、岩手としてはどうするのかということを考えて欲しい。	災害時における女性防火クラブ等の活動にみられるように災害対応における女性の役割が大きいことはご指摘のとおりですので、現状認識として記述を追加します。 なお、消防団員は非常勤特別職の地方公務員として、一定の義務を負って活動をしていますので、女性防火クラブとはおのずと違いがありますが、今後、女性消防団員加入が進み、機能別分団の活動が拡大した場合は、女性防火クラブの活動と調整を図る必要が生じることも考えられますので、各市町村において防災体制の強化の観点から適切な調整が図られるよう助言を行ってまいります。	B(一部反映)	I 東日本大震災津波からの復興と防災における男女共同参画の推進 2 防災における男女共同参画の推進 《現状・課題》	○ 災害対応における女性の役割が大きいことから・・・	○ 災害時における女性防火クラブ等の活動にみられるように 災害対応における女性の役割が大きいことから・・・
9	(マイナンバー制度に関連して)DVの相談をすることさえ躊躇してできないような人がDV被害者なので、市町村や県の方でも、DVで今逃げている方への対応について分かりやすく提示してもらえれば助かると思う。	参考とします。 なお、現在策定中の「いわて配偶者暴力防止対策推進計画」において、県民への広報・啓発に取り組むこととしております。	D(参考)	—	—	—
10	大人で実の母親から暴力を受けている人が多い。DVではないので難しいとは思いますが、相談できる場所があれば助かると思う。	岩手県男女共同参画センターでは、様々な不安や悩みを抱えている方からの相談に対応しています。 なお、現在策定中の「いわて配偶者暴力防止対策推進計画」では「暴力のない家庭・社会の実現」を目標に掲げ、県民全ての人権が尊重され、安心して心豊かに暮らせるいわての実現に向けて取り組むこととしております。	D(参考)	—	—	—
11	いろいろな指標がある中、例えば、「貧困対策については生活困窮者自立支援法で対応します」とか「子育てに関しては子育て会議でやっています」といった話がとても多いが、もっともっと連携しているところが見えるようにしてほしい。	参考とします。 なお、男女共同参画は非常に多岐に渡る分野であり、関係部局と連携を取りながら、プランの推進を図りたいと考えております。	D(参考)	—	—	—
12	「女性」が強調されているが、例えば、父子家庭でも困窮している家庭がある。「女性」に限定してしまうことで漏れる人がいるということがすごく怖い。こうですよと決めてしまうことが、ここの枠から漏れた人は人であってはいけな、という気さえしてしまうような現状があるのではないか。	今回は女性の活躍推進がプラン改訂の一つの契機となっており、改訂後のプランは女性活躍推進法に基づく県推進計画を兼ねることとしたことから、「女性」が強調されていることはご指摘のとおりですが、女性が活躍するためには男性の理解と協力が必要であり、女性にとって暮らしやすい社会は男性にとっても暮らしやすい社会となると考えております。 なお、岩手県男女共同参画センターで男性からの相談に対応していることについての記述を追記します。	B(一部反映)	Ⅲ 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備 2 男女共同参画の視点に立った意識改革と制度・慣行の見直し (1) 意識啓発と制度・慣行の見直し	(記述なし)	以下の記述を追加。 ○ 男性からの多様な相談ニーズに対応するため、男性相談員による男性相談を実施します。
13	人材育成やリーダー育成だけではなく、一般市民が勉強できるような機会を確保し、もっと住民レベルで人を尊重し合えるようなプランの素案作りであってほしい。	プランでは、全ての県民の皆さんに対する学習機会の提供や、広報・啓発活動の実施に取り組むこととしております。 なお、プランの改訂に当たっては、県内7箇所で開催し、73名に御参加いただきました。	C(趣旨同一)	—	—	—
14	女性の立場で考えた防災・復興計画や男女共同参画という形をもっと盛り込む必要がある。女性だけが大変な目にあったからというのではなく、生活者の視点として、女性は今までの生活レベルの中で困りごとが見えてきた、ということをもっと盛り込んでほしい。	プランには、復興・防災に関する政策方針決定過程への女性の参画や地域防災計画等に男女共同参画の視点を反映させることを盛り込み、取組を進めることとしています。	C(趣旨同一)	—	—	—
15	被災した市町村は行政自体が疲弊しているので、そちらに対する手当てもしていかなければならない。この指標、女性の管理職を設けなさい、といっても、計画をつくること自体が難しくなっているのが現状なので、皆が協力できるようなシステムとしての構築をお願いしたい。	平成27年11月1日現在、被災市町村には県内および全国の自治体から725人の職員が派遣され、業務を支援しています。 市町村における男女共同参画基本計画の策定については、引き続き情報提供等の支援を行います。	D(参考)	—	—	—
16	男性の育児休暇取得率が低いので、これから育児に入る県職員の男性の方々にも育児休暇を取っていただき、イクメンをもっと県でも推進していただき、男女共同参画を進めていただきたい。	参考とします。 なお、県の次世代育成対策推進法に基づく特定事業主行動計画においては、委員ご意見のとおり男性の育児休業等の取得率を目標値として定め、その達成に向けた取組を推進していくこととしています。	D(参考)	—	—	—

No.	意見	検討結果(県の考え方)	反映状況	反映内容		
				反映箇所	反映前	反映後
17	素案の中では「女性の活躍支援」の中に「ワーク・ライフ・バランス」が入っているが、女性のみがワーク・ライフ・バランスを整えればいいという誤解を招く可能性があるのではないかという懸念がある。男女共同参画というのは、男女双方のワーク・ライフ・バランスが整っていくことが重要だと思う。政策的なこともあり、なかなか県独自でつくるのは難しいと思うが、ワーク・ライフ・バランスの推進を、県民の生活をより良くしていくという積極的な意味で展開していければ良いと思う。	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現は、男性にも女性にも重要であることが明確となるよう、記述を追加します。	B(一部反映)	Ⅱ 女性の活躍支援 3 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進のための環境づくり 《目指す姿》 《現状・課題》	《目指す姿》 県民が仕事、家庭生活、地域活動などに自分の希望するバランスで参画しています。 《現状・課題》 ○ 女性が過重な家事負担を負うことなく仕事と家庭の両立が可能になるよう、固定的な役割分担意識の見直しを促進し男性の主体的な家庭生活への参画を進めるとともに、男女双方にとってワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を進めていく必要があります。	《目指す姿》 県民が、 男女の別を問わず 、仕事、家庭生活、地域活動などに自分の希望するバランスで参画しています。 《現状・課題》 ○ 女性が過重な家事負担を負うことなく仕事と家庭の両立が可能になるよう、固定的な役割分担意識の見直しを促進し男性の主体的な家庭生活への参画を進めるとともに、 長時間労働の削減等の働き方改革に取り組み 、男女双方にとってワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を進めていく必要があります。
18	サラリーマンであれば産休、育休が取れる機会があるが、自営業の場合にはなかなか難しい。制度的にも、産前産後の出産手当金というようなものがなかったりということがあるので、特に農林漁業の従業者が多い地域であれば、何か将来的に県として独自の取り組みができないか。	今後の産業振興施策の参考とします。	D(参考)	—	—	—

区 分	内 容	件数
A (全部反映)	意見の内容の全部を反映し、案を修正したもの	1
B (一部反映)	意見の内容の一部を反映し、案を修正したもの	5
C (趣旨同一)	意見と案の趣旨が同一であると考えられるもの	2
D (参考)	案を修正しないが、事業等の実施段階で参考とするもの	9
E (対応困難)	A・B・Dの対応のいずれも困難であると考えられるもの	1
F (その他)	その他のもの (内容に関する質問等)	0